

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

【氏名】 諫早 直人

【所属】(助成決定時) 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

【研究題目】 古墳・三国時代における金工品生産と身分表象

【研究の目的】

本研究は、日本の古墳時代と同時期の朝鮮三国時代における金属工芸品(以下、金工品)の中でも、所有者の政治的身分と密接に関わったと考えられる帯金具などの金工服飾品と、その所有者が乗った馬に装着された装飾馬具という用途の異なる二つの着装型金工品の生産体制を明らかにし、当時の身分表象体系に迫ろうとするものである。

申請者は以前に東北アジアの多くの国において、装飾馬具の材質や意匠が金工服飾品と共通するケースがしばしば認められることから、それらの国々において服飾と飾馬が一体となった身分表象が展開していた可能性を提起した。このような私見が確かであれば、南朝を中心に存在したことが明らかな礼制にもとづく中国的官位とは別個に、可視的な身分表象体系を東夷諸国が独自に構築していたことを意味し、その学術的意義は極めて高い。本研究ではその仮説を検証する一つのモデルケースとして、金工作家との共同研究をおこない、冒頭に掲げた問題への接近を試みる。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究では同じ墳墓から出土した金工服飾品と装飾馬具のつくり(材質・意匠・製作技法)に注目して分析をおこなった。分析にあたっては、型式学などの考古学的手法に加えて、金工品に文様を施す彫金技法に特に注目した。彫金技法の特徴は、工房や工人を特定する端緒となると同時に、まったく形態や用途の異なる各種金工品を横断した分析を可能とする。もちろんそういった視点は、考古学者の間でも以前から注意されてはきたが、その多くは金工品製作に関する技術的・経験的裏打ちをもたないため、主観的で初歩的な誤りが多かった。そのようなリスクを避けるためにも本研究では、数々の金工品復元製作を主導してきた工芸文化研究所の鈴木勉氏と共同で資料調査をおこなった。

なお、本研究のような複数の国・地域を対象とする比較考古学的研究は近年盛んであるが、その多くは報告書などにもとづいた議論に留まっているのが現状である。しかし、工房・工人を特定する精度で、比較をする際には、分析資料の実見は必要不可欠である。よって、研究の遂行にあたっては実地における資料の観察を第一とし、マクロ写真撮影などの方法で記録化をおこなった。実地調査は下記の機関でおこなった。

2011年10月26～29日 日本、うきは市歴史民俗資料館ほか(福岡県月岡古墳出土品)

2012年5月10・11日 日本、京都大学総合博物館(福岡県月岡古墳出土品)

2012年7月14～21日 大韓民国、嶺南大学校博物館ほか(慶尚北道林堂古墳群出土品)

これらの古墳は、倭と新羅でそれぞれ独自の金工品生産が開始したと考えられている5世紀前半代に位置づけられ、金工服飾品と装飾馬具が一緒に出土している。これら进行分析することによって、両国に同じつくりの金工服飾品と装飾馬具が存在したのかどうかについてはもちろん、金工品生産の開始に王権がどのように関わっていたのかについて実証的な議論を展開することが可能となることが期待された。

【結論・考察】

彫金技法という各種金工品に共通して認められる技術要素を分析することで、月岡古墳の各種金工品の中に眉

庇付冑と共通性が高い一群(馬具を含む)と、共通性の低い一群が存在することが明らかとなった。服飾の中でも日本列島で製作された可能性の高い眉庇付冑をはじめとする武具と、ともすれば輸入品とみられがちな装飾馬具との間に密接な技術的關係が認められたことは大きな成果である。日本列島において金工品生産開始当初から身分表象を可視的に示す金工服飾品と装飾馬具が有機的な関係のもとに生産されていたことは、日本列島にもたらされた技術の源流を考える上で非常に重要な手がかりとなる。

なお月岡古墳の調査成果についてはいま述べたようにその概要をすでに公表しているが、林堂古墳群の調査成果についての分析作業は現在も継続中である。まだ日韓1例ずつ計2例ではあるが、本研究で示した方法が金工品を研究する上で非常に有効であることがわかった。今後分析対象や地域を増やしていくことでより安定した議論を目指していきたい。

(論文)諫早直人・鈴木勉 2012「古墳時代の初期金工品生産に関する予察—福岡県月岡古墳出土品の調査成果から—」『奈良文化財研究所紀要 2012』 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

(口頭発表)諫早直人 2012「九州出土馬具と朝鮮半島」『沖ノ島祭祀と九州諸勢力の対外交渉』(第 15 回九州前方後円墳研究会)、2012 年 6 月 16・17 日、於 北九州市立いのちのたび博物館

(講演)諫早直人 2012「騎馬文化はなぜ海を渡ったのか」(東アジアの古代文化を考える会 例会)、2012 年 8 月 25 日、於 豊島区生活産業プラザ